日本糖尿病学会　国際交流委員会

EASD2024 Associations' Village ブース出展報告書

作成日：2024 年 9 月 18 日
出張者：事務局　堀、金子

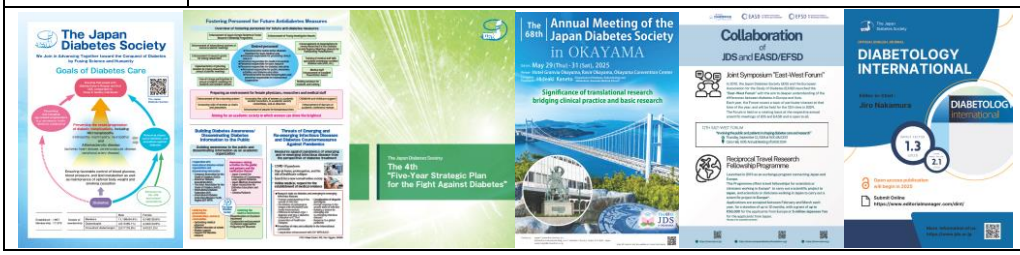
- **スケジュール**

出展先：60th Annual Meeting, European Association for the Study of Diabetes 2024, Madrid, Spain
設営日：2024 年 9 月 9 日（月）
公開日：2024 年 9 月 10 日（火）～13 日（金）9:00-18:00（最終日は 14:00 まで）
会　場：ブース番号 23, EASD Community Plaza, ホール 9
Presidential Tour　：9 月 12 日（木）15:00～



- **掲示物**

ポスター	学会活動紹介（4 枚組） 第 4 次 5 か年計画抜粋 第 68 回年次学術集会
配布物	学会活動紹介リーフレット 第 4 次 5 か年計画リーフレット 第 68 回年次学術集会チラシ EASD/EFSD の共同事業紹介チラシ 英文誌チラシ 英文論文別刷り 3 種、見本本 英語 inquiry 用ビジネスカード　（各約 50 部、全て英語版）
ノベルティ	DI クリアファイル（富士山柄）



- **担当者**

事務局員 2 名、会員からの公募担当者 2 名

- **ブース担当者の公募**

若手会員の海外学会参加支援策として、ブース担当要員を糖尿病学会理事・監事の推薦募集を実施した。5 名の応募があり、以下の 2 名が選出された。糖尿病学会からの旅費の支援を行い、学会のブース駐在担当をしながら学会に参加した。

都野 貴寛会員	群馬大学生体調節研究所／横浜市立大学医学研究科　大学院生
穂積 かおり会員	神戸大学大学院医学研究科　糖尿病・内分泌内科　博士研究員

- **報告**

ブースについて

・メンバーブースはホール 9（企業展示、ポスター、スポットライトステージ、などのエリア）の一角に Community Plaza として設置され、計 36 団体のブースが設置された。

・本学会のブースは short oral session（ポスター発表）エリアの前に位置し、12 時～15 時の発表時間帯は人の出入りの多い位置にあった。





short oral session エリア



糖尿病学会ブース

展示・配布物への反応

・学会活動・日本の糖尿病の状況など General な情報をまとめた資料を作成し、メイン資料として質疑応答に使用した。

・日本の学会への参加に興味を示す方も多く、68 回年次学術集会のチラシをお持ち帰りになる方が多かった。

・EASD と本学会の関係性を説明するため、EASD との共同事業（シンポジウム「E-W Forum」と交換留学事業、EASD 会期中 9 月 12 日開催）の紹介チラシを作成・配布し、シンポジウムの広報をした。

・日本の研究を知りたいという方々に英文誌「Diabetology International」の別刷り・

チラシが有効であった。

来訪者について

・会期前半に全体を見て回る方が多いため、会期前半（1 日目、2 日目）はブース来訪者が比較的多く、後半（3 日目、4 日目）に進むにつれて落ち着いた。
・昨年同様、プログラムの合間（昼食・ポスター発表時間の 12 時～15 時）が最も来訪者が多い印象であった。
・確認できた来訪者の国籍は下記の通り。

アフリカ	エジプト、モロッコ、アルジェリア
アジア	インド、インドネシア、中国、フィリピン、シンガポール、日本
ヨーロッパ	イギリス、ギリシャ、ジョージア、スペイン、スウェーデン、ハンガリー、フィンランド、ポルトガル、マケドニア、ルーマニア、ロシア、ベルギー、イタリア
北アメリカ	アメリカ、カナダ
南アメリカ	チリ、ブラジル、ウルグアイ、アルゼンチン
オセアニア	オーストラリア

ブース来訪者数（日別）

9 月 10 日：15 名
9 月 11 日：18 名
9 月 12 日：15 名
9 月 13 日：6 名

来訪者からの主な質問

【学会参加および会員について】

・日本で専門医になるための方法
・日本糖尿病学会の活動内容
・学会の会員数
・学会員の構成（医師・医師以外）
・日本糖尿病学会に参加する方法（会員になる必要があるか）
・日本の年次学術集会の参加者数、外国人参加者数
・年次学術集会に外国人は参加可能か

【糖尿病研究および臨床活動について】

・日本の人口と糖尿病患者数、1 型と 2 型の割合

・糖尿病網膜症の診療方法
・日本の糖尿病診療におけるフットケア
・JDS との国際的な研究協力方法
・2 型糖尿病患者のために JDS が行っていること

【学会関連資料および出版物について】
・日本の患者会の資料はあるか
・英文誌 Diabetology International （DI）に関する全般（DI とは何か／閲覧方法／内容・目次／論文は全て学会内で執筆しているのか等）

【日本の糖尿病全般について】
・日本での肥満人口
・日本の糖尿病患者の割合
・日本の医薬認可を取る方法、自社のテクノロジーを日本に紹介する方法

その他
・糖尿病学会会員にお立ち寄りいただくことが多々あった。他団体ではブースを内部来訪者の休憩場所や集合ポイントのように活用（兼用）しているケースもあり、海外学会参加時の困りごとや緊急避難（充電や休憩など）先として、会員の交流場所にも兼用が期待できる。
・本年は会期最終日に企業展示が閉鎖されており、ホール自体の入場者が大きく減少した。滞在経費削減のため、今後は最終日の人員の縮小を検討する。
・過去にはノベルティを複数用意し来場者のアイキャッチにしていたが、都度製作経費が必要であることから、昨年より法被を 2 着作成し消耗品から再利用可能な備品に見直しをした。ブース担当者が着用することでノベルティと同等のアイキャッチ効果の向上がみられた。
・学会の活動紹介は事務局が行い、日本の糖尿病学の質問は公募したブース担当会員（臨床研究・基礎研究の 2 名）が回答を行った。今後もブースにおいて、若手会員の活躍が期待できる。

今後に向けて
・EASD との共同事業に関する配布物を継続し、広報に努める。
・学会活動紹介資料は、用意した 50 部が 3 日目で配布終了したため、次年は増版が必要。
・年次学術集会参加への導線を強化する。地方都市開催の場合にはアクセス方法の記載もあるとよい。

・会員向けに学会ブースがあることの広報をし、糖尿病学会会員の方のための現地拠点のような役割へ広げていく。
・人員配置、滞在日程の見直しで滞在経費の最適化を図る。

以上